

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成17年度病害虫発生予察情報について

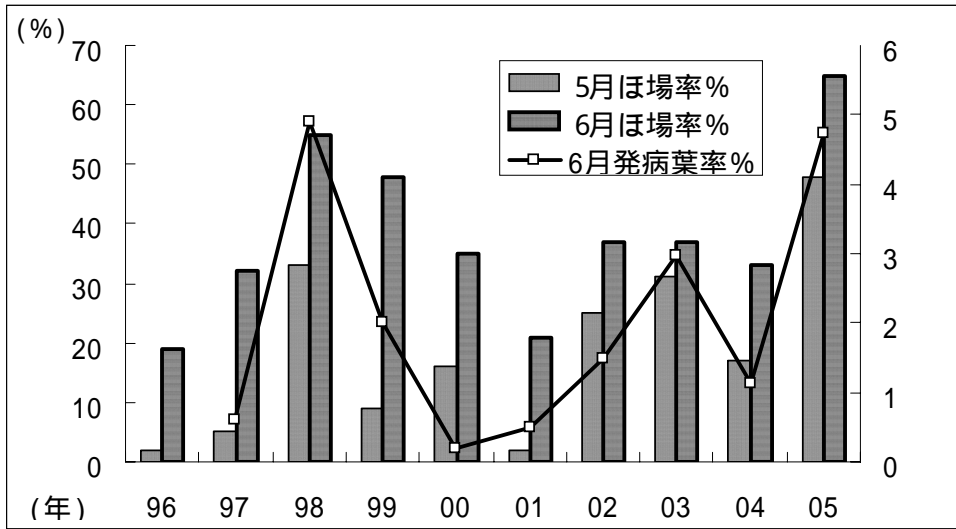
このことについて、発生予察注意報第3号(カンキツかいよう病)を発表したので送付します。

病害虫発生予察 注意報第3号

平成17年6月23日
鹿児島県病害虫防除所

- 1 農作物名 カンキツ
- 2 病害虫名 カンキツかいよう病 (*Xanthomonas campestris* pv. *citri*)
- 3 予報内容
 - (1) 発生地域 カンキツ栽培地帯
 - (2) 発生時期 梅雨期
 - (3) 発生量 多
- 4 注意報発令の根拠
 - (1) 6月中旬の巡回調査で、発生ほ場率は65% (平年34%) , 発病葉率は4.9% (平年2.1%) と過去10年間で最も高かった。北薩地域の調査ほ場では、甘夏の春葉での発生ほ場率は100%で、落葉が多数確認された。同地区のポンカン、不知火、温州みかんでも多くの発病・落葉が認められた。
 - (2) 落葉した春葉のほとんどは、中肋付近または、葉身の基部や葉柄に病斑が確認され、今後も落葉が増加する可能性が高い。
 - (3) 落葉の多い樹では、罹病した春葉が多数残っており、果実や夏梢に感染する可能性が高い。
 - (4) 昨年台風による樹体の風傷で、伝染力の強い潜伏越冬病斑が多くなり、発芽期以降、小雨ながら降雨が断続的に続いたことも春葉の多発につながったと推測される。
- 5 防除上注意すべき事項
 - (1) 春葉及び果実の防除は落花期～梅雨期を中心に行うが、防除後も新たな病斑が見られる場合は、追加防除する。また、甘夏、ネーブル、大橋など発病しやすい品種では適宜、防除回数を増やす。
 - (2) コサイドボルドー(2,000倍)の残効は20～25日程度で、雨が多い場合はこれより短くなる。
 - (3) 銅水和剤を使用する場合は、薬害を防ぐため炭酸カルシウム剤300倍を必ず加用する。また、銅剤は夏季の高温時に使用すると薬害を生じやすいので注意する。
 - (4) ミカンハモグリガの食入痕から感染しやすいので、幼木、高接ぎ樹ではミカンハモグリガの防除を徹底する。
 - (5) 防風垣、防風網を整備し、台風等による風傷からの感染を防止する。

(参考資料)



カンキツかいよう病の発生推移 (5月, 6月)



葉柄を残して落葉



樹冠下に落ちた春葉



葉身と葉柄の境界部にできた病斑

落葉した春葉の病徴

病徴と病斑の発生	落葉数	割合 (%)
葉身部に病斑有り	49	28.3
中肋部に病斑有り	70	40.5
葉柄を残して落葉 (葉身に病斑無し)	48	27.7
病徴無し	6	3.5
合計	173	100.0

6月19日調査, 温州ミカン3樹(15年生)

